

男女のパートナーシップを考える

男女共同参画情報誌

# まなびし

Vol.10  
2012.3

「まなびし」：すべての人と人とがやさしい、あたたかいまなびしで互いを見つめ、認め合い、誰もが目線を同じにして、相手を思いやる平等な社会にむけて。



イラスト 大和一夫さん(藤久保在住)

もくじ 「特集 東日本大震災・被災地支援」2～3P 「災害と男女共同参画」4P 「日本女性会議

報告・育児休業中の給与」5P 「共に生きる女と男のセミナー・ヒューマンフェスタ報告」6P

「三芳町における男女共同参画の動き」7P 「女性相談案内」8P

三芳町



## 障がい者そして女性は…

家族の支えをはじめ福祉サービスを受けていた障がい者にとって、環境が変わった避難生活は非常に大変な状況でした。他の人に迷惑をかけるはいけないと部屋に閉じこもり状態の方、普段と違う事態に戸惑い、布団の中で動けない方など様々でした。高齢者と同じように障がいのある方は、町の中心から少し離れた場所での避難生活で、巡回バスはあるものの交通の便が悪く思うように外出できないなど苦労されています。

夫や息子が原発関連施設に勤務されている女性は、「休暇で避難所に帰ってきてどんな仕事なのか話さないので、夫や息子の身体が心配だが自分の気持ちを口にすることもできない」と妻として母として何もできない自分の状態を話していました。別の女性は「ふと夫の顔を見たら、私の夫はこんな歳だったか？」と思ったりです。身体が資本…このままでは夫も自分もダメになると思い、避難所の玄関先で嫌がる夫と朝のラジオ体操を始めたところ日に日に参加者が増え、今では交流の場として活用されている様子でした。健康を気遣いながら、人の繋がりを築く女性にたくましさを感じました。(高橋 万紀子)



# 特集

## 3.11 東日本大震災

相互の助け合い・共に生きること…  
今私達に出来ることは？

被災地支援に行かれた町職員(保健師)に伺いました。

### ☆被災地派遣職員☆

福祉課・精神障害者小規模地域生活支援センター  
保健師 高橋万紀子さん

健康増進課・保健センター  
保健師 仲野真由美さん

健康増進課・介護保険係  
保健師 中齋つかささん



## 子どもの心に残ることは…

避難所を回り住民の健康相談と、県外に避難している方へ子どもの予防接種のお知らせを作成するといった支援を行って来ました。元々人の繋がりが強い町のように、健康相談で各家を回っている時も「あそここの部屋にも声かけていって。最近部屋から出てないから…」と、私たちに伝えるに来てくれたり、避難所内にいる子どもに声をかけたり、町の人同士、お互いを気遣っている様子がとても伝わりました。今までの生活が一変し、その上先の見通しも分からず、不慣れた環境での子育て、通学、仕事など多くの不安を抱えながら生活する辛さは想像できるものではないと感じました。毎朝小学校へ通学するバスを待つ子ども達が見ている様子や、大型バスを二〜三台連ねて通学して行く子どもたちを見ると「震災がなければ、こんなことにならなかつたのに…」「大震災や今の生活経験が、子どもの心や記憶にどう残るのだろうか」という想いがしました。

大熊町の保健師が「私達の町は暖かく・住みやすく・何より人がいい」と自慢していたのが印象的でした。(仲野 真由美)



## 高齢者は…

多くの高齢者の方は、生まれてからずっと大熊町で生活をしてきた為、若い方と比べ環境適応に時間がかかり、町がどんな状況であれ生まれ育った家に早く帰りたい気持ちがありました。殆どの方が持病を抱え、継続して服薬が必要な状況でしたが、いつもの医者さんの薬でないと飲めないなど、慣れない生活の中で体調を崩し病院に搬送された方もいます。これまで家事や農作業など忙しくしていた方々、特に女性は食事もお風呂も用意される生活は手持ち無沙汰となり、部屋に閉じこもり鬱状態になる方もいました。

家族を亡くされた方は「みんなもつらい思いをしているのだから」と悲しみを表すこともできず、震災のショックと共に心にしまい込んでいました。被災者同士では互いに気を遣い話せないことも、外部から来た第三者には辛い気持ちを吐き出すことができるのです。慣れ親しんだ人が近くにいることは大切ですが、それ以外にも本音を話せる人の存在が必要だと感じました。(中齋 つかさ)

東日本大震災により亡くなられた方々とそのご遺族に対し、深く追悼の意を表しますとともに被害に遭われた方々や避難生活を続けておられる方々に心からお見舞い申し上げます。

平時にできないことは  
有事にもできない

高齢者は慣れ親しんだ土地を離れての生活の辛さ、地域の方がどこにいるか分からない不安、障がい者は今まで信じてきた主治医との別れ、環境の変化に対応できない身体、子どもをもつ親は成長していく子どもの気持ち、知らない学校での生活など数えきれない程の現実を受け止めているようです。

被災地を目の当たりにした三人の保健師は、「個々を繋ぎ地域を作る、日常の見回り、平時にできないことは有事にもできないので日頃からできるように心がけ保健師として皆さんに安心感を与え、誇りを持てる存在でありたい」と、今回の支援を通して被災地の方たちから学んだと話されていました。

震災が起きた直後・一か月後・二か月後…そして一年が過ぎた今では当然異なるニーズがあるのでしようがマスクを通して知る状況と実際に現地に行き、目にした現状の話は想像を遙かに超えていました。

顔見知りの方が近くにいるという安心感、話を聞いてくれる人がいるだけでも良い。普段からそうありたい。

# 絆



## 被災地支援 福島県大熊町へ…

先の大震災により、原発事故の影響で住民及び町役場機能も会津若松市に移転を余儀なくされた大熊町に、三芳町より3名の保健師が交代で昨年5月から6週間の支援に行きました。大熊町への職員派遣は、全国町村会より埼玉県へ派遣要請があり三芳町と大熊町双方の支援条件などが合い実施されました。

福島県は、大熊町のある浜通り・中通り・会津地方の3つの地域からなり、気温の差、食べ物の違い等同じ県でも生活形態が異なります。大熊町は温暖な地域、会津若松市は雪の降る寒い地域、不便な生活の中でも前向きに逞しく生きる…“東北魂”を応援したい。



# 日本女性会議2011 松江



## 語ろう・紡ごう、“だんだん”の縁を世界へ

平成23年10月14～15日、松江市で行われた日本女性会議に行ってきました。東日本大震災に関する報告、これからすべきこと等がいろんな分科会で話された会議でした。

岡島敦子さん(内閣府男女共同参画局長)は、「男女共同参画社会の実現を目指して」と題して、2010年12月17日閣議決定された第3次男女共同参画基本計画の概要を話されました。全体で15の重点分野がありますが、今回5つが新設されています。

- ① 男性・子どもにとっての男女共同参画
- ② 貧困など生活上の困難に直面する男女への支援
- ③ 高齢者・障害者・外国人等が安心して暮らせる環境の整備
- ④ 科学技術・学術分野における男女共同参画
- ⑤ 地域・防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進

実現に向けて、活発な行動がなされることを期待したいです。

また、東日本大震災からの復興の基本方針(2011年7月29日)には、「男女共同参画の観点から、復興のあらゆる場・組織に、女性の参画を促進する」ことが盛り込まれ、災害に強い地域づくり・地域における暮らしの再生・地域経済活動の再生(農業)を目指しています。

- 普段から女性が参画していかないと、何かあったときには難しい…
- 日々の日常から男女共同参画をしていくことが大切…
- 女性の目線をいろいろな組織にも入れるべき…
- いろいろなノウハウは自分から進んで生かしていく…
- 普段から地域住民と知り合う… 等々、改めて感じました。

(齊藤)

2012 開催地は、仙台です  
「きめる うごく 東北から」  
奥山恵美子仙台市長が  
「是非仙台にきてください」と  
熱い思いを述べていました。

※ 詳しい内容をご覧になりたい方は、役場総務課に大会報告冊子があります。

# 災害と男女共同参画

## 『三芳町地域防災計画の一部が見直されています』

…備えあれば  
憂いなし!…  
防災の主役は  
町民のみなさん  
一人ひとりです

女性・高齢者・障がい者・子どもたちなど、多様なニーズに対応できる  
防災の取り組みをみんなで提案しましょう…

現在町では…

災害対策本部機能の実践的検証・地域コミュニティによる防災体制づくりの促進・公助共助の有効な運動と自助啓発の推進を見直しの視点として計画を検討しています。

この計画は、町民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、災害対策基本法第42条に基づき、町の全地域に係る予防計画、応急対策計画及び復旧計画に関する事項を定め、防災活動を総合的かつ計画的に行なうことで防災の万全を期することを目的としています。三芳町は表日本気候に属し、夏は高温多湿となるほか、時々雷雨に見舞われ、冬は北西の強い季節風が吹き低湿度の晴天が多い。晩霜の影響で時として農作物に被害をもたらすことはあるが、大きな被害は少なく安心して生活できる環境の町です。

国内外での大災害において、災害後の影響は女性をはじめより脆弱な立場の人へのしかかることが問題となっています。誰もが安心した生活が確保できるように防災の取り組みには、それぞれのニーズを把握し、男女共同参画の視点を含め災害復興計画が必要不可欠になります。

「もしも」のとき…  
自分の命を守ること、そして、身近な命を助けることが第一です。

## 育児休業中の給与

昨年3月発行の男女共同参画情報誌「まなざしVol.9」で「みよしの育メン」として町男性職員を取り上げさせていただきました。後日お読み頂いた方から、記事の中では触れなかった公務員の『育児休業中の給与』についてご意見等をお寄せ頂きました。

### 『育児休業中の給与』に対するご意見に答えて

公務員の場合は、「育児休業をしている期間については、給与を支給しない」という条文(※)があり、育児休業期間中は無給となります。ただし、共済組合より『育児休業手当金』が支給されることとなっています。

※国家公務員の場合は「一般職の国家公務員の育児休業等に関する法律」第5条2項  
地方公務員の場合は「地方公務員の育児休業等に関する法律」第4条2項



## 東日本大震災 〔三芳町被災地支援報告〕

### ★職員派遣

派遣職員 保健師3名  
派遣先 福島県双葉郡大熊町避難先(会津若松市)  
派遣期間 平成23年5月9日(月)～6月19日(日)

### ★被災地ボランティアバスパック

三芳町主催  
日程 平成23年5月14日(土)  
支援先 宮城県石巻市  
参加者 町長及び町職員22名



三芳町及び三芳町社会福祉協議会主催

①日程 平成23年5月28日(土)  
②日程 平成23年6月25日(土)

\*①②共に支援先は宮城県東松島市、参加者は三芳町在住・在勤者それぞれ20名

③日程 平成23年7月16日(土)

\*支援先は、宮城県石巻市、参加者は三芳町在住・在勤者20名  
同行者は、社協職員2名

### ★「蒸かしサツマイモ」で復興支援

日程 平成23年11月5日(土)

\*支援先は、大熊町避難先の会津若松市「おおくまのさとまつり」会場において蒸かしサツマイモを提供する。参加者は町長及び町職員9名

★対策本部を設置し、避難所老人福祉センター(内)の開設及び義援金・救援物資等の受付を行いました。

# 三芳町における男女共同参画の動き



まなざし  
第1号  
2003.3発行

- ◇ 昭和50年：国際婦人年、それに続く国連女性10年の取組という世界の大きな動きに合わせて、三芳町でも女性の人権、あるいは男女共同参画という意識が高まってきた。
- ◇ 昭和63年：女性の組織「ミズ・トゥモロー」が中心となって、女性セミナーが10年間開催された。
- ◇ 平成11年：男女共同参画社会基本法が制定された。「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することが出来る男女共同参画社会の実現は緊要な課題となっている」
- ◇ 平成12年：「みよしまち女(ひと)と男(ひと)の共同参画プラン」を制定し、男女が共に参画するまちづくりを基調とした男女平等施策の推進を進める。
- ◇ 平成14年：「三芳町男女共同参画推進会議」が設置され、今年度で10年目。推進会議の委員は町長から2年の任期で委嘱され、現在5期目の委員が様々な活動すると共に、委員の資質の向上を図っています。

## 主な活動

○年一回情報誌『まなざし』の発行 ○『共に生きる女(ひと)と男(ひと)のセミナー』の開催  
○2年目の任期終了時に「提言書」を町長に提出 ○男女共同参画週間に合わせてポスターの提示や参考図書のご案内 ○全国女性会議や男女共同参画宣言都市サミットなどへの出席  
○他の地域の活動状況等情報収集

## 次の10年に

男女共同参画社会とは、平等とは、フィフティー・フィフティーではなく、自分らしく生きるために選んだ道を進める社会ではないかと考えています。未曾有の災害を受け、防災対策も男性だけの視点でなく、女性や高齢者、障がい者、外国人などいろいろな立場の人の視点を入れる必要を痛感しました。今後の推進会議はどうあるべきか、どのような社会がよりよい社会なのか見据えながら、次の10年に引き継ぎたいと考えています。

## 提言書の提出に向けて

この10年を振り返り、提言書が政策の中でどう反映されたか、何が進んだか、何がネックになっているのかを改めて検証する必要性を感じました。今回5回目の提言書を作成するにあたり、次のことを盛り込むことにしました。

### ■①②について総括、検証することで次に繋げる

- ①これまでの提言書について総括をする
- ②「みよし男女共同参画プラン」はどこまで進んだのかの検証をする  
※基本理念と基本目標

「一人ひとりがいきいきと暮らせる男女共同参画社会の実現」に向けて

- 目標 ・人権の尊重と男女共同参画の意識づくり
- ・男女がいきいきと暮らせる環境づくり
- ・男女共同参画によるまちづくり

### ■地域、防災、環境その他の分野における男女共同参画の推進

### ■男女共同参画に関する情報を広く知らせるための情報コーナーや拠点の設置を望む



# 共に生きる女(ひと)と男(ひと)のセミナー

平成23年10月22日(土) 藤久保公民館

## ～もっとイキイキ女と男 落語家の世界から見つけた男女の個性～



落語家 林家 うん平師匠

うん平師匠は、“女と男”と書いてこれを“ひととひと”と読んでおられます。調理師時代と落語家になってからの体験をもとに人と人の繋がりの大切さ、人を女と男ではなく“ひととひと”として捉えることが重要と熱く語っていました。男性優先の落語の世界に飛び込んできた女性を如何に教育し育てたかを、そしてそれがお互いの成長にも繋がり自分自身も落語家としても大きく飛躍できたこと。この落語家の卵は女性らしい目線で考え行動し周りの信頼を勝ち取って居場所を見つけたこと。暫くすると真打となるであろうこの“ひと”の姿が見られると期待を持っているそうです。

仲のいいご夫婦も女と男という事ではなく“ひととひと”として阿吽の呼吸で喜びも悲しみも分かち合いながら人生という王道を歩いて行って下さいと笑いを随所に取り入れ話を締めくくられました。(高橋)

★身近な題材による、男女共同参画を分かりやすく楽しく披露してください。良かった。それぞれ人は、皆違うものでもお互いを尊重し合う事の大切さを感じた。(40代女性)

(50代男性)

★セミナー講演内容もとても良かったが、落語をもっと少し聞きたかった。(50代女性)

★体験談の中からの話、なかなか厳しい社会状況の中で生きていく力、支え合い、苦しみのはてに見えてくるもの大切さを感じた。(50代女性)

★初めて生で落語を聞き、声を出して笑えた。内容も前向きな生き方を聞けて良かった。(30代女性)

…セミナーアンケートより…



# ヒューマンフェスタ2012

平成24年2月11日(土) 文化会館 コピスみよし

## ～がんばっぺ、オラの大好きな日本～

相手を理解する(知る)言葉のコミュニケーション術…

日本での生活も32年になるダニエルさん。来日当初、「いってきま～す」という主語のない言葉に驚いたと言う。外国人から見た言葉のニュアンスの違いや、言葉にできない相手を思う心等を、ユーモアたっぷりの流暢な山形弁で話されました。又、大震災から約1年。被災地への偏見や差別を取りのぞこう、間違った情報を鵜呑みにしない。もっとも怖いのが風評被害や、若者に対する仕事も気にかかる。岩手・宮城・福島産物を沢山購入することも支援に繋がる。ダニエルさん自身、これからもボランティアで被災地に出向き、東北を応援したいと熱い気持ちを語られた。(浜砂)



タレント・山形弁研究者  
ダニエル・カールさん

# わたらしいわたし…であるために ご相談ください!

## みよしまち 女性相談

●女性の視点に立った悩み・困りごと相談

- 日 時：毎月第2・4金曜日／午前11時～午後3時30分（予約制）
- 場 所：役場1階 住民相談室
- 相談員：専門の心理カウンセラー(女性)
- 相談料：無料
- 申込み：総務課 人権推進係 TEL.049-258-0019 (内線404・405)

※電話または面談での相談ができます。秘密は固く守ります。安心してご相談ください。

夫婦のこと 家族のこと  
自分の生き方 心身の不安  
職場や地域の人間関係  
DV セクハラ など

## DV等に関する 相談窓口

●夫や恋人など親密な間柄で行われる暴力行為を、一般的にドメスティック・バイオレンス(DV)といいます。DVは犯罪にもなる許されない行為です。《緊急の場合は 迷わず110番!》

実施機関・相談の名称	受付日	受付時間	電話番号
埼玉県配偶者暴力相談支援センター (埼玉県婦人相談センター DV相談室)	月～土 日・祝	9:30～20:30 9:30～17:00 (年末年始は除く)	048-863-6060
With You さいたま (埼玉県男女共同参画推進センター)	月～土	10:00～20:30 (日曜・祝日・第3木曜日・年末年始は除く)	048-600-3800
警察安全相談 (東入間警察署 生活安全課)	月～金	9:00～17:00 (祝日・年末年始は除く)	049-269-0110
埼玉県警察本部犯罪被害者支援室	月～金	8:30～17:15 (祝日・年末年始は除く)	0120-381858

## ご意見・ご感想をお待ちしています。

〒354-8555 三芳町大字藤久保1100番地1  
三芳町役場 総務課 人権推進係  
「まなざし・お便りコーナー」宛  
FAX. 049-274-1055  
E-mail:manazashi@town.saitama-miyoshi.lg.jp

平成22・23年度

### 三芳町男女共同参画推進会議委員

神奈川三樹江 齊藤富美江 鈴木美貴子  
高橋美幸 浜砂豊子  
向吉孝子 横山八重子

平成24・25年度(6期)  
男女共同参画推進会議委員  
**募集中** 男性歓迎

## … 編集後記 …



「縁結び」とっても素敵な言葉ですね。  
出雲地方では、人と出会うこと・親子になること・仕事に就くこと・夫婦になること・ものを買うこと・遊ぶこと・生きること…生活することの全てを縁結びと言い、「ありがとう」は、出雲弁で「だんだん」…。  
何だか穏やかな気持ちになります。  
島根県で開催された日本女性会議2011松江では、多くの学びと女(ひと)と男(ひと)の縁(えにし)を実感した。同じ想いを胸に参加した仲間と触れ合えたことを宝物に一日一日を大切に過ごしたい。2002年に三芳町男女共同参画推進会議が発足し今年10年を迎えました。これまで携わって頂いた推進委員始め関係者の方々のご尽力に感謝致します。  
… だんだん …

「まなざし」Vol.10 2012・3 (年一回発行)

発行 三芳町 総務課 人権推進係 TEL.049-258-0019 (内線404・405)

※この情報誌は男女共同参画推進会議が企画・編集しました。